

913.6
2
19

西洋道中膝栗毛

十編
上

Bancroft Library
萬國海峽

假名垣魯文戲著

西洋道中

膝栗毛

萬笈閣様

一蕙齋芳幾狂筆

繪編
24
28

31751

古由戲作者ナルモノ有テ妄語

中ノ妄說ヲ編出シ贅書中ノ

贅冊ヲ上梓ス寸モ其世ニ効ナキ

而已ナラズ隨テ童蒙ヲ欺クニ至ル斯

ガ文明ノ世ニ至ルト雖モ未ク其類少

カラズ豈歎カザル可シ哉獨リ我カ友

魯子以時ニ當リテ一朝五大洲ヲ
 夢遊シ所謂世界ノ名山大川各
 國ノ風土氣候及ヒ其佗奇觀壯
 覽ト稱スルモノ記シテ數篇トナス其趣
 其文戲書ニ屬スト雖モ童蒙婦女
 ヲシテ畧其地名事情ヲ知ラシメ際

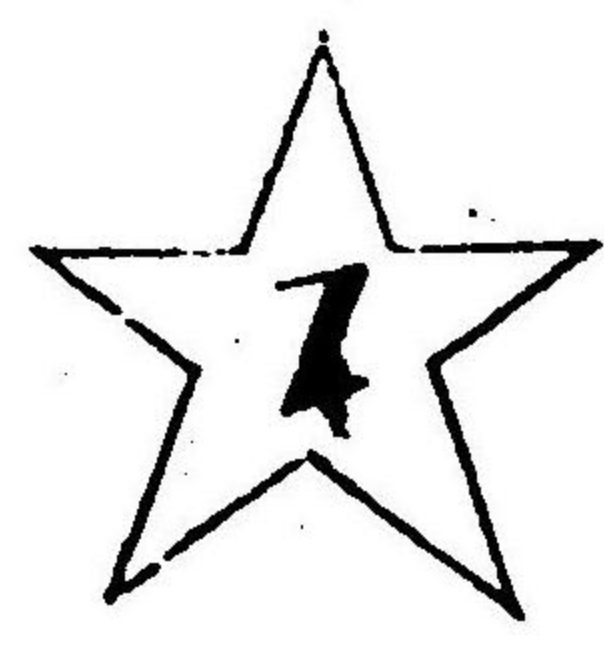
其方位里程ヲ知ラシム是レ世
 間ノ妄說寓言ノ書ト今日ノ論ニア
 ラバ少レク世ニ效アルニ近クシテ彼ノ
 一九七草ノ戲書ニ優ルイ遠シ始テ
 知ル魯子ハ魯子ニアラザルヲ請フ此
 編ヲ際スルモノ世間ノ合卷ト稱スル

寓説ノ編ト同視スルイナクンバ閱セ

ザルニ勝ラン歟

于時幸未仲殊

友人星一序



五月廿六日



五



五月廿七日

三

南	之	烟	久	仁	夕	那	巴	加	世	藻
船	津	奈	毛	怒	茂	美	都	保		
古	登	婦	祢	者	手	夙	念	百		

顯橫灣港泊船艦

紀魯 瑟 囑

從名古屋之書帖

尚存名古屋者甚多其古者乃
 今之神廟也其古者乃今之
 西門也其古者乃今之
 東門也其古者乃今之
 南門也其古者乃今之
 北門也其古者乃今之
 中門也其古者乃今之
 左門也其古者乃今之
 右門也其古者乃今之
 前門也其古者乃今之
 後門也其古者乃今之
 上門也其古者乃今之
 下門也其古者乃今之
 左門也其古者乃今之
 右門也其古者乃今之
 前門也其古者乃今之
 後門也其古者乃今之
 上門也其古者乃今之
 下門也其古者乃今之

西洋膝栗毛茅拾編後序
當編也。世界第一滑稽稗史の駿足はしき。
一鞭千里の大評判。内地の看官は勿論横濱
築地。在留の外客競ひく購ひ求め。寸暇ふ
学ひ讀中。かきこふ。既々當時尾州名古屋古
袖町の戲場。ふたつ。是を脚色て人気を引く
也。此膝栗毛の驥尾。目的の當利を覘ふ
為め。かきこふ魯文先生の雷名交際の名

國小惠。目今佛國の馬曲師スリエ
ある。個曲馬與行の告條及び自己の傳記
株中の紀行。あんなの倭解を乞へるも
又膝栗毛の餘澤。はして所謂馬の馬連の
因縁。やあらん。下磨先生の編を成や。
諺云。云ぶ。つげ書。あ。再稿。を省。は。是。えん
許。の。著。述。は。追。々。筆。硯。繁。雜。止。を。得。ぬ
杜撰。廣。漏。も。少。く。神。也。頭。才。筆。力。江。湖。上。の

西洋栗毛十七

言二

流行上下の事情を穿つ小至りく。稗官
 者流の二筆小下りほど。實小戯作者の巨筆
 と稱ゆべき。此物の伯樂とある。小栗が
 馬を讚誉格あり。序者の後馬に乗地の
 一言。曷采々々と嘆称ふらん。

那夢傳盲屋老人題



西洋道中 藤栗毛拾編上

東京 假名垣魯文戯著

文明窓の花屋さ。東海小舟く西洋の道潜むる
 を案内の記。魏俗書の禁りより。戒に入楚の原書を
 披りく。畢ふ今日の僥倖を得る小ありの好機會
 業廢天窓が月代のまきまきも無業がエビシを書きあはる
 且小道をとめて夕小舟まきまきも可なりとらる。儒の在
 文ある灯の折しきも性名をみるまきまきとらる。裁

西洋道中

あたぬふあるのの遅いと。引込思案が周備姑息と干
 振袖に十傳回素統二十筆六十。遅速を輪せむと学
 おが專一倫藉よ中坐の痛落知らぬとて一せせつら
 考ふだも麻様べんんと金銀扱ひげこつりのをさす
 九風あそびたまらむらむらふと。何ぞも田文とわねの便
 宣統海さぬおたうらう。強は那北八二人りの考りガ
 イロの城下をさすこしめくも車より藤一備ふた
 初にその夜海泊舎小枕をさす。ウーくうもたう

知せしが次の目よりつてさる去らむ形く教目をほし
 あが博覧余の概念ふをくも統海先示さすれば
 舞園ゆをらく治療をさ一時も疾く全快させんと
 考る度病が指摺ふより通次郎の終者のまんと
 たのまゝ地痛院は兩個を擧めらるる合せ
 送りゆきと由をさす一間を借更道ぬ一上等の
 医の程考をもえんと彼知小治居けり

○作者曰歐羅巴諸國の病院小病者入院の規則

カエト...

及び際村の事ごの西洋事情ごの余の統括

書小巨油々もつる愛小新習させて彼書冊を統て

後け戯編も一箇一の佳具小入條多うは

○ 飾次郎はまき八のあへて橋渡中が仕切らる下名の橋渡あやうきとて

通は那とてあまのあうりひ商きこひの青二とてあはせ入るあやう

も十八がたてあまのあへてあやうきとてあはせ入るあやう

異人のれくあまのあへてあやうきとてあはせ入るあやう

ひあまのあへてあやうきとてあはせ入るあやう

まがへるあへてあやうきとてあはせ入るあやう

ぐまがへるあへてあやうきとてあはせ入るあやう

ぐまがへるあへてあやうきとてあはせ入るあやう

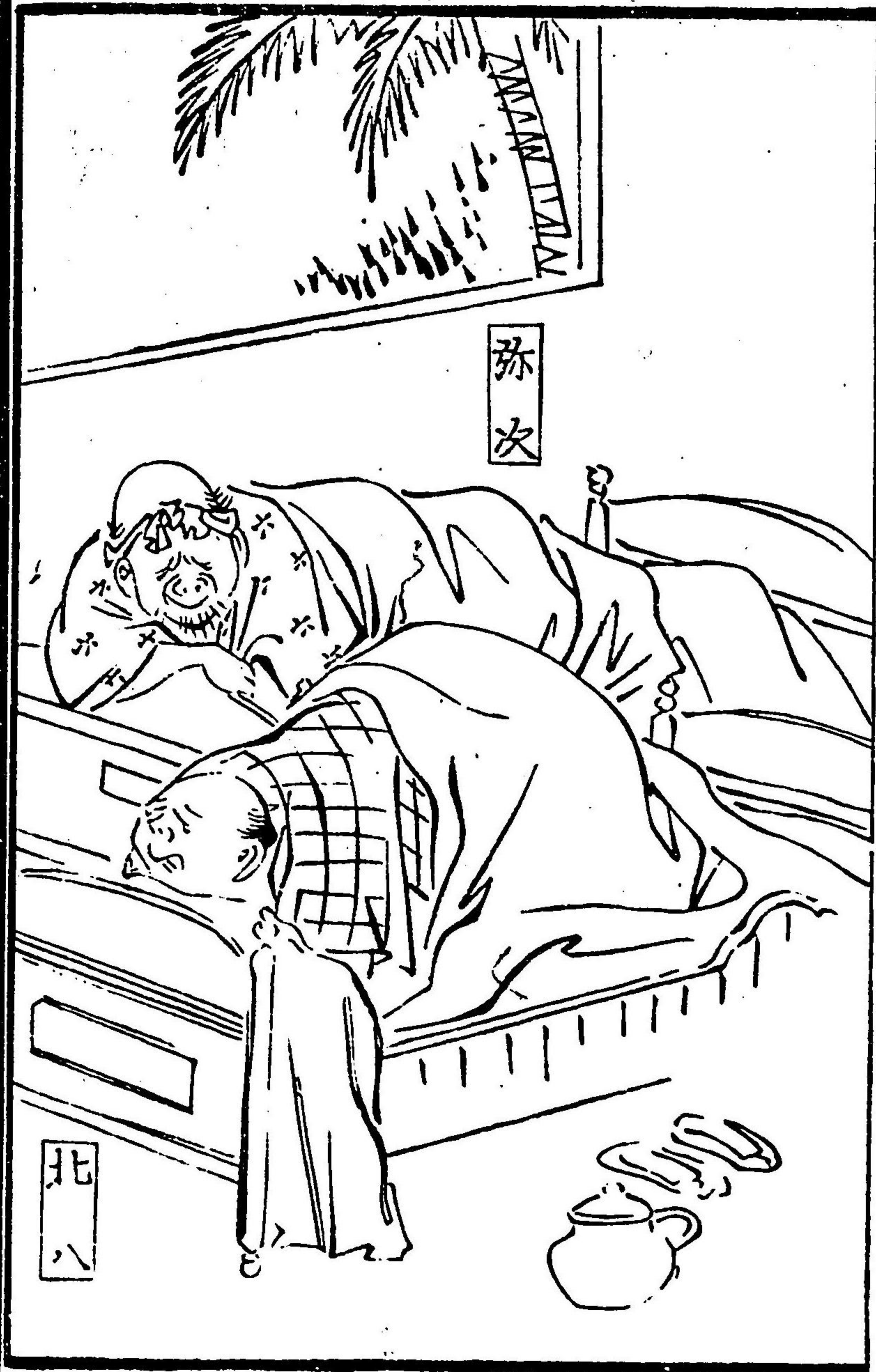
ぐまがへるあへてあやうきとてあはせ入るあやう

ぐまがへるあへてあやうきとてあはせ入るあやう

ぐまがへるあへてあやうきとてあはせ入るあやう

ぐまがへるあへてあやうきとてあはせ入るあやう

ぐまがへるあへてあやうきとてあはせ入るあやう



次

次

吉

通



だんらひむかひに知らぬ他國のあつた守りせ北「そつちか前
故たりやうもらかへしつらふたふんてナナイタミ」弥「あんご
わんらうむらがへしつらふたふんてナナイタミ」弥「あんご
人参具長あるをとりあげ通「ハミ北さんの片膝の初編
うらの通つ者だまらうへ」あつたふんてナナイタミ「やうご
十字だつらおつてふんてナナイタミ」あつたふんてナナイタミ
院の方先生の何処の函の函者ツあつたふんてナナイタミ
僕も明細やアキウツるあつたふんてナナイタミのへボシ先

生の一妻弟子で「シヤボシ」とらふんてナナイタミ「サ
んあつたふんてナナイタミの足を新つたアノ横渡お着いド
クトルの弟子だ子通「そつちか金後切者の先生だそつち
北「あんごへボシの弟子あつたふんてナナイタミ」や
せん「通つていふんてナナイタミ」やアキウツるあつたふんてナナイタミ
せん「あつたふんてナナイタミ」あつたふんてナナイタミ「通つていふんてナナイタミ」
弟子ゆやアキウツるあつたふんてナナイタミ「あつたふんてナナイタミ」
のう子北「あつたふんてナナイタミ」あつたふんてナナイタミ

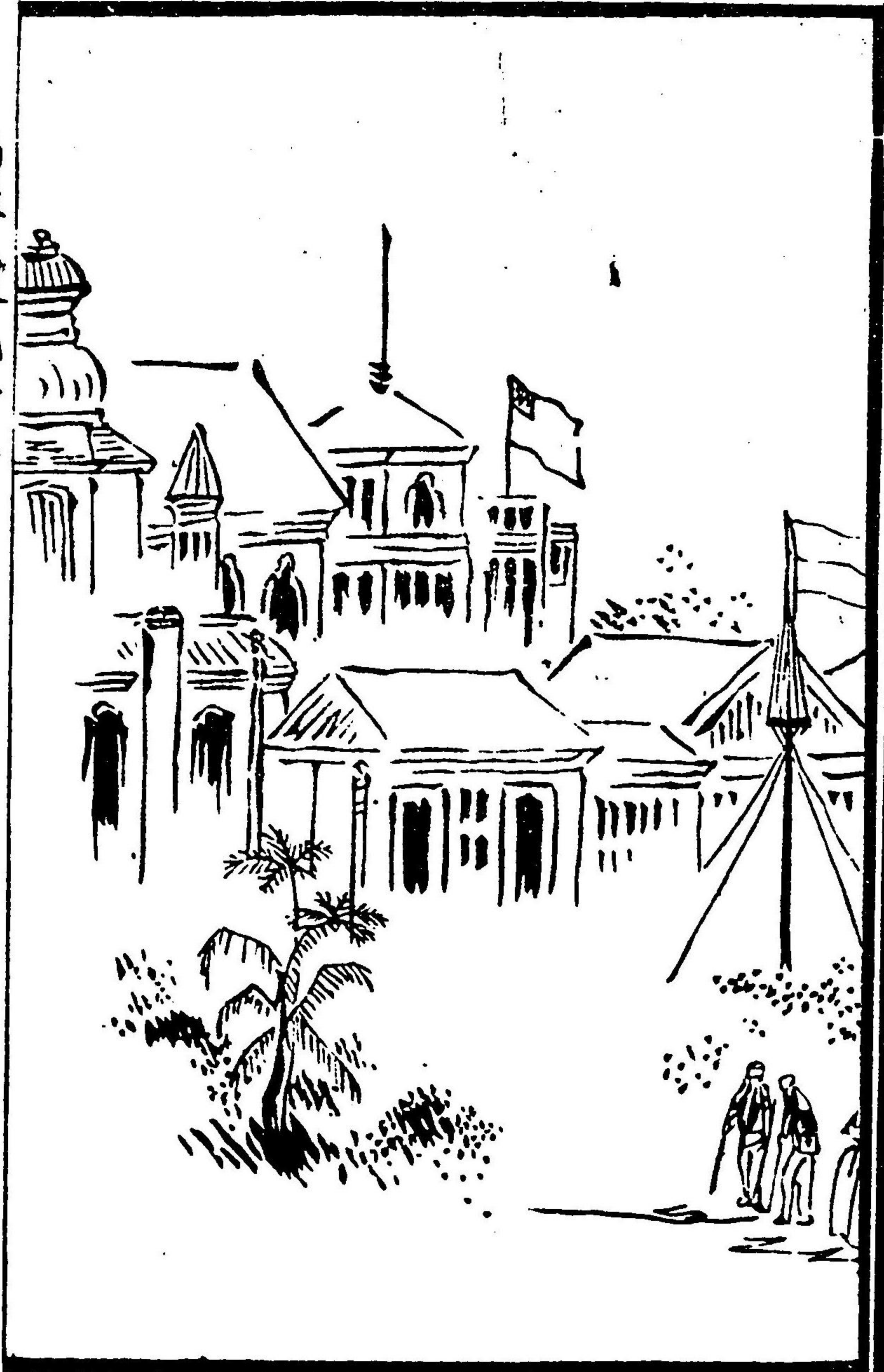


通次

自己だらう奉のらか極とたから知つてるとや
 女郎も昔系の仲之町張から伏見町西海岸の
 小町まで新町三丁目^{三丁目}の局鋪まで買イ込と
 場所の根津板橋小塚大干住小新宿の上下ヨ小
 店へ登え世のひき移るもよより越こぎ船で買
 とらふ秘傳までとらふとくお川ならとくお様や
 藩屋小え若いのらうん坂から橋むつめととあり
 越こぎ一足とび小川橋神奈川秘が谷から橋渡

の藤まで食らうかた々まで便毒一ツ遣が
 ここのねへのらまぬだらうそれとらめが身ぢんや
 かりから對妓小癪音があつてもはひ方のからた
 らけつとせ移るア平常の行妓よするのだねエ
 通せん 通自分であらうる遠入らあつらうがシヤ
 ホジガ若小癪音があつたらんなんどヨ北一そうだ
 らうく跡はさんどとく癪音の移入自傳ちで
 小入舊年あつらう一産小塚系の若松一遊具

カイロ
小病院
外面構
の圖



一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

西洋象毛十上

...

